

夏の特別展「やまぐち 大考古博」

「ほっとやまはく」
タイム③⑥



画しています。中でも、

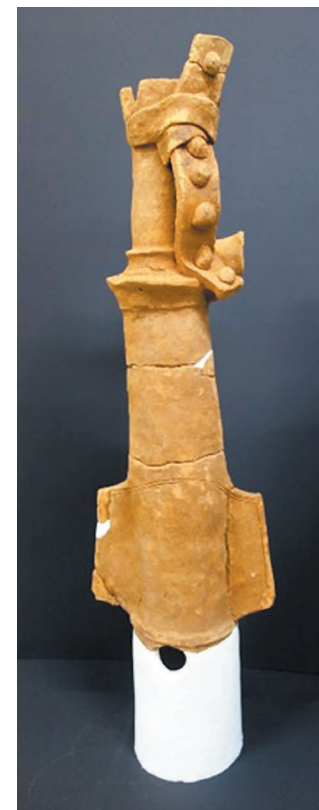
紹介します。

東京国立博物館 からの里帰り品

「やまぐち 大考古博」
考古をテーマとした特別
展は、何と約40年ぶりの
開催となります。この連
載では、夏までの間に8
回分を考古特集として、
特別展の見どころや宇部
市にゆかりのある遺跡を

特別展「やまぐち 大
考古博」は、これまで山
口県で発掘された貴重な
文化財や優品を県内外か
ら山口博物館へと集め、
一挙大公開するという壮
す。

大な企画です。目玉の一
つは、東京国立博物館に
収蔵されている品々の里
帰りの展示。東京国立博物
館でも普段は見ることの
できない、梶栗浜遺跡(下
関市)の鏡と銅剣、柳井
茶臼山古墳(柳井市)の
鏡、赤妻古墳(山口市)
の鏡、嫁塚(すくもつか)
古墳(長門市)の馬具と
いった、山口県を代表す
る優品が当館に集合しま



天王森古墳・大刀形
埴輪 (下松市教育委
員会提供)

東アジアをふかんで 山口県の歴史とその魅力

展示品から伝えたいこ
とは、山口県の歴史とそ
の魅力です。日本全国の
中で山口県には、どのよ
うな特徴があるものでし
ょうか。それは、東アジア
をふかんでく海を通じ
た交通の要としての歴史。
北は日本海、西は響
灘、南は瀬戸内海に面す
る山口県は、朝鮮半島や
中国大陸と日本列島を結
ぶ東西交流の結節点にな
っていたのです。

今から約3000年前
に始まる弥生時代には、
海を通じた交流が始まっ
ていました。響灘沿岸の
土井ヶ浜遺跡(下関市)
や地藏堂遺跡(同)、王屋
敷遺跡(長門市)などか
らは、大陸や半島より直
接渡来した人々の墓や青
貨幣が製造されました。

銅器などの遺品が見つ
かっています。
1800年ほど前の3
世紀以降、古墳時代には
ヤマト王権との強いつな
がりを示す前方後円墳
が、瀬戸内海沿岸に集中
して築造されました。柳
井茶臼山古墳の鏡や天王
森古墳(下松市)の埴輪
(はにわ)は、瀬戸内海
ルートを重視したヤマト
王権が地域の支配者と関
係を深めた様子がうかが
えます。

日本海側では、見島ジ
コンボ古墳群(萩市)で
の武器、金属や石で
きた帯飾り具が出土して
います。これらは、朝鮮半
島の緊張関係の中で見
島に武装集団が配備され
たことを想像させます。
500年ほど前の室町
時代には、畿内・西国の
覇権を握った大内氏が東
西交流に大きな力を持っ
ていたことが分かります。
東の京都からの影響
をみると、大内氏は京都
を模して山口の街並みを
整備した他、大内氏館で
は京都の室町幕府中枢で
の宴会をまねて酒杯や献
立を整えていました。西
の朝鮮半島からは、日本
国内では希少な白磁耳
杯、象嵌青磁陶枕(ぞう
づけん)複製品

がんせいじとうちん)が
もたらされており、関係
の深さを推測させます。
また、江戸時代の萩城
下町でも発掘が進み、世
界遺産の重要な構成資産
となっています。

博物館を起点に 県内を巡ろう！

特別展に併せて、県内
の博物館や文化施設を巡
る記念スタンプラリーや
連携展示、講演会などを
準備中です。身近な歴史
を知ることで地域の良さ
や強みを発見し、それを
磨き上げることが、郷土
に誇りと愛着を持つため
の第一歩になると思いま
す。

ぜひ博物館に足を運ん
で、さまざまな展示品が
語の掛ける臨場感あ
ふれる歴史に耳を傾けて
みてください。

阿部来(学芸員・考古
担当)

▽次回は19日です。



長門鑄銭所跡・和同開珎



王屋敷遺跡・有柄細形銅
剣(ゆづけいほそがたど
うけん)複製品

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館(祝日
の場合は翌日)。
最新情報はホー
ムページで

